

【資料編・影印】

明曆三年九月十七日

御祭礼之次第

「松雲公採集遺編類纂」の卷一八五

（金沢市立玉川図書館所蔵）

松雲公遺稿古文類纂卷百八十五

森田平次輯纂

雜部四

長州雜記

仙臺雜記

明曆三年九月十七日御祭礼之次第

一番 南村牛町
川原町

一作お屋形船車仕を引百人衣裳ゆき
の上より舟主一人の舟ぬいそく左地老からの
若牌舟拾人衣裳各以舟船寄る内

三人はうす抄役若小拾人
共いこ拾七人上下各
合百五拾七人

二番 派治町

一作おと久忠信車仕を引三拾人
共いこ拾七人舟主一人の舟ぬいそく
赤裏竹杖と廿衣を共共三拾一人の舟
七弓拵て武衣を着口拾八人長刀拵之

せしき物三拾八人廿二に拾一人上下言
合百七拾七人

三番 荒所

一 あさきの的作物車右白糸繩引五人
黒小綿張言新費一に紋青の笠歩こ
若八拾六人廿二に拾一人上下言 籠
五人赤くく為るも 多くつ可貴牌 新拾
五人 丸の毛 せしき物 中五人とをも、物走人

まいこ山拾八人上下言

合百五拾六人

四番 本枝中町

一 作物橋舟受車右白糸繩引五拾人
衣装くろ小綿つりめり羽織きつ紋
ひの牛笠歩こ若八拾五人あさき羽二言
くく赤くくつ可貴金言新費きつ紋子あ
みくさくさり丸の毛五人あさき五人境

作五人小者拾五人係名拾人計三拾人
上下与

合百五拾五人

五番 二日所

一作おかのまのまの車石臼の繩引三拾人
かひ牛綿めいひの金丸を以て致さるる
隊中是よりひひ立者九拾人云々
云々人つりぬり金丸を以て致さるる

但本日案隊中黒日やまの牛を計八員
少人山伏お立えん小者を拾五人計
拾人上下与
合百五拾五人

六番 小枝牛所

一作お釋の車石臼の繩引お拾人衣袋
お牛綿丸の角の太文字赤つり人五十
人釋お立言張の大物おりり計九

五拾四人 月布三々 浪 小柄抄持何等
ぬい居ぬ有り 武を名 中拾六人 ありこ系
五人 羽よりをかい可六人 保者拾六人 あり
うん作物多子のせ中 女五人 翁五人 たるこ
黄五人 小者拾五人 ありこ三拾六人 上下者
合部百三人

七番 七つふ町

一 作物ありを五布力々々 車日お籠り

三拾人 茶巾綿つ可貴 角紙巾 歩者五十
人 白小袖黒をきりひの牛笠 大小ありひな
ま手竹杖 牌を拾六人 うちこむより衣裝
多し ぬすた運金 急而一 再洋をとり 持
右口ををとりひあを系 牌三拾四人 女
出ま衣裝多し ぬすた作花持ひの本
笠を三拾四人 保者をつとむひくにらその
若三人 笠をとり 帯小をとり 拾六人 音いと

小指五人 上下馬

合百七拾九人

八毒 四分

一作お不い車右日分但ら一し一り牛角
全三作唐子拾三人唐人おま三人一桶
子多ひまの唐子七拾人若繼の女唐人全
果ひの他お若ひおま唐人八拾七
人日おま也一も連得拾人三不三人

役者七人 せし拾五人 共一こ拾拾五
人 上下馬

合百五拾五人

九毒 立町

一 山路之作お車右日分繩川五拾人 衣袋
湯黄巾綿のか日の多を人筋二筋竹の子
三を茶以り子共拾五人のを若一衣の
木笠馬の海をら一子一一不ら一井武者五

拾遺人五人 一はあつたひりひり定不こ封奉子
小きし指差人 せうし指子拾人 けいこ拾人
上下手

合部百廿拾遺人

十番 南町

一 作おきそ車右日お縄江口拾人 衣装
黒木綿ぬいづぬ角匠中 歩く者三拾人 衣
装白小袖ひ足よのつり黄小あき定竹

扶三拾人 笠匠中 竹子 定花 籠くつり
拾人 衣装 多し 定多

一 夕張の作おろ日人 拾人 貝吹抄人 こそ
指差人 封包着抄人 せうし 指差人 せう
その黄膏人 三人 せうし せうし 黄膏人 せう
ちやうり せうし けいこ 拾人 上下手

合百廿拾遺人

十一番

大町 二月

一作物部鮮國方日本へは見廻り狩り
 唐人より此せりかか接人唐人出立大
 名は左幸吹なり一左幸小名は左幸長日
 外振浪炮並下り二張弓竹込中左殺
 左の廿外全物御朱中箱左の九人
 作物籠へ入り虎一作物籠へ入り巻
 物三十年の左幸人の役者三抄五人おとり
 子控五人唐人お立えおとり付の保志

五十五人唐人歩行者三拾五人 廿二名指拾
 四人 子控い藤屋五人 左幸指唐人作物百
 宗唐人おとり五上左人作物歩行者四拾
 五人 七幸逆月音三拾五人 上幸言
 合計百三拾四人

上番 大町 三丁目
 四丁目

右内先行次第 小村松七郎

一 ちり高窓せし水歩人歩者五拾人何十牌
道具持をて
清興源為

一 象の作物花車ひく役者拾五人内
唐子七人
河村長吉

一 牌武者五人赤母衣全系月一歩者
六人
南洲善長為

一 塩屋作物車子仕屋中子志不や巨左人
志不汲込人塩子志不や巨左人塩屋手拍人役

者八人

塩屋新為

一 侍を仕立争々送屋之り也歩者計
拾人
徳田善長為

一 ちり高窓せし作物車子仕屋役者七人
内唐子三人
高 孫七

一 まるの愈り此作物車子志不や巨左人
装束する四人車子系役者計拾七人
何十牌
乙女作客為

一 各車川舟子と應えて指と出た人ハ仰わ
車子並中保者拾三人内ちこ三人
車子系 唐見丸橋

一 株舞仰わ人形少人かこり車仕口付
舞臺の上を五六人舞た。左や付せ保
者拾人 多な七人

一 各車人童子仰わ舞者拾人保者
拾六人 唐見丸橋

一 各車一の仰わ車子仕を繩引云拾二人衣
合せあひまを保者拾人仰わ舞

大町 三丁目

一 各車一の仰わ車子仕を繩引云拾二人衣
袷黒絹錦々をまゝ五人奴子既巾黒手や
白人保者五人歩者七人衣袷下子白
小袖上黒小袖ををり五人赤裏ををり
半身りあひまを保者拾人黒手や先

此一冊者或浪人仙臺之家
年衆為因る寛文七年未年
中為見廻至彼地教有滞
為其時閑事又申山事

書付不持不予以懇望
申之